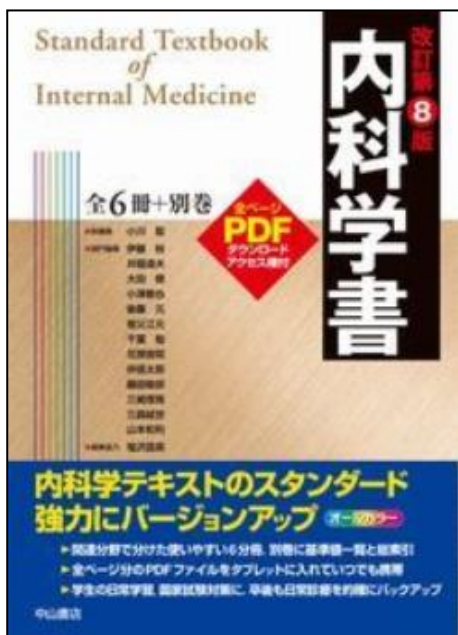




待望の「内科学書」がついに 電子書籍で提供！



内科学書 改訂第8版

総編集: 小川 聡
(国際医療福祉大学三田病院院長/
慶應義塾大学名誉教授)
ISBN: 978-4-521-73775-1
発売日: 2013/10

同時1アクセス: 70,200 円 + 税
同時3アクセス: 105,300 円 + 税

病態の理解に重点をおきながら、臨床がしっかりと身に付くよう編集された内科学テキストのスタンダード。現象面の説明にとどまらず、「どうしてこうなるのか」の理由をきちんと解説することにより、医学生の基本図書となり、かつ卒後も実践医療の場で辞書的に使えるような幅広い知識を提供する。

Medical Tribune 2013年12月26日号 本の広場より 抜粋

学生だけでなく研修医にとっても最適の書

内科学テキストとして第8版を重ねるロングセラー。詳細な病態の理解や症状の説明、さらにメジャー疾患の解説が充実している。全6冊に別巻付きのボリュームも最大となっており、学生だけでなく研修医にとっても最適の書といえる。

疾患の説明は、現象面にとどまらず機序から逐一解説され、診断ポイントも明示。例えばメジャー疾患の結核では、概念や徴候、医療面接のポイント、診断・検査、診断後の処置、治療に項目を分けて詳細に解説。感染症の中の、例えばアデノウイルス感染症という一分野を取り上げ、概念や病因、疫学、臨床症状、診断・治療という項目に分けて詳述している。



ビギナーのための小児内分泌診療ガイド

有坂 治(獨協医科大学) ISBN:978-4-521-73917-5 発売日:2014/03
同時1アクセス:20,600円+税 同時3アクセス:31,000円+税

内分泌疾患はホルモンの作用機序と分子的なしくみを扱う領域のため、一般小児科医にとって専門性が高い印象がある。しかし、子どもの成長・発達・成熟に直接関わる要素であり、適切な時期に適切な治療を受けることができないと、生涯にわたる障害を残すことになる。どの分野の小児科医にとっても、子どもを診るうえで欠かすことができない臨床技術である。



子どものけいれん・てんかん

奥村彰久(順天堂大学) 浜野晋一郎(埼玉県立小児医療センター)
ISBN:978-4-521-73698-3 発売日:2013/03
同時1アクセス:20,600円+税 同時3アクセス:31,000円+税

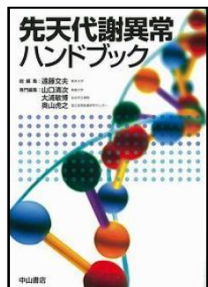
熱性けいれん8%、てんかん1%—高い有病率から見えてくる小児科医とけいれん・てんかんの密接な関係。推論の積み重ねといわれるてんかん診療を、初心者でも初期対応できるよう、脳波、画像、臨床症状、誘発因子から進める診断と、熱性けいれんへの対応、救急でのけいれん重積治療、病型に対応した薬物治療・特異的禁忌をまとめた。



ガイドランス 子ども療養支援 医療を受ける子どもの権利を守る

監修:五十嵐隆(国立成育医療研究センター) / ISBN:978-4-521-73962-5
発売日:2014/05 同時1アクセス:8,500円+税 同時3アクセス:12,800円+税

発達段階により子どもの理解度は異なるが、その子なりの理解で病気や障害と対峙し、立ち向かう力を湧出させることは、その回復に大きく貢献する。本書は、子どもを医療の主体的参加者としてとらえ、その人権を踏まえた対応を行うために必要な考え方と方法論をまとめた。子どもの療養支援にかかわる医師、看護師、保育士、子ども療養支援士等専門職がもつべきベーシック・ナレッジの解説書。小児医療環境の新しい基準を示す関係者必読の書。



先天代謝異常ハンドブック

遠藤文夫(熊本大学) / 山口清次(島根大学)
大浦敏博(仙台市立病院) / 奥山虎之(国立成育医療研究センター)
ISBN:978-4-521-73694-5 発売日:2013/02
同時1アクセス:33,900円+税 同時3アクセス:50,900円+税

疾患の種類は多いが、それぞれがきわめてまれなために、これまで専門家に委ねられていた先天代謝異常症は、タンデムマス法によりスクリーニングの幅が広がり、予想を超えた多くの患者が発見されている。一般小児科医が時期を逃さず対応できるよう、難解な原因酵素の分子メカニズムを代謝マップで標準化し、主に日本人にみられる200疾患の見つけ方、検査手順と早期治療法を示した。



精神疾患の脳画像 ケースカンファレンス 診断と治療へのアプローチ

監修:福田正人(群馬大学) 編集:笠井清登(東京大学) / 鈴木道雄(富山大学) / 三村将(慶應義塾大学) / 村井俊哉(京都大学)
写真・図・表:約380点 ISBN:978-4-521-73969-4 発売日:2014/07
同時1アクセス:21,400円+税 同時3アクセス:32,100円+税

精神疾患における脳画像診断が注目されてきている。本書では、CT、MRI、SPECT、PET、NIRS、EEG、MEG、ERPなどを取り上げ、その原理やデータについて詳述し、どこまで精神疾患の診断に役立つかを解説した。また、実際の症例を多数掲載し、各画像の注目すべき箇所を説明とともに明示した。精神疾患における画像検査の今を知り、臨床場面に役立てるための一冊。

2015年8月